

知床硫黄山の火山活動解説資料（平成 29 年 7 月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 火口や噴気の状況（図 1～4）

14日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、噴気は確認されませんでした。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、北西側中腹の爆裂火口で弱い地熱域が確認されましたが、前回（2015年5月）と比較して特段の変化は認められませんでした。

また、カムイワッカ川の河口付近の海岸には、前回と同様に北西側中腹の爆裂火口から湧出した温泉による変色水が確認されました。

1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図 1 知床硫黄山 周辺図（矢印は赤外熱映像及び写真の撮影方向）

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平 26 情複、第 658 号）。



図2 知床硫黄山 北西側上空からの状況
図1の①から撮影
・噴気は認められませんでした



図3 知床硫黄山 カムイワッカ川から流出した温泉による変色水の状況
図1の②から撮影

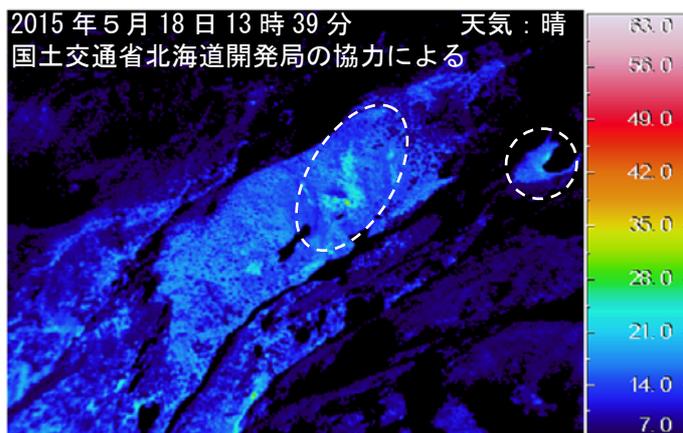
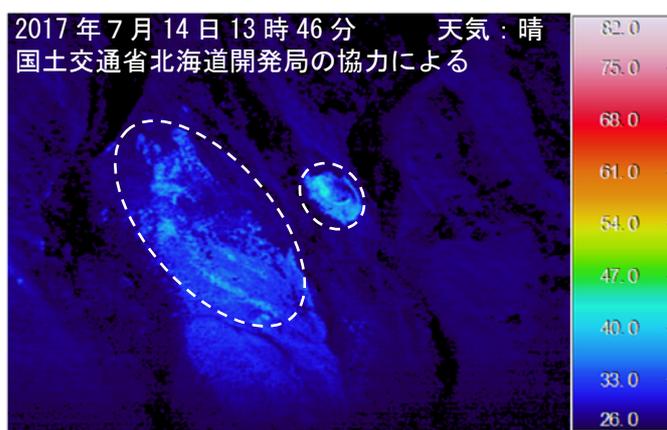


図4 知床硫黄山 北西側中腹の爆裂火口の地表面温度分布
上：図1の③から撮影 下：図1の④から撮影
・地熱域（白破線内）の状況に特段の変化は認められませんでした